

平成 2 2 年

第 4 回仙北市議会定例会

市 政 報 告

仙 北 市

平成22年第4回仙北市議会定例会の開会にあたり、主要事項についてご報告します。

はじめに、仙北市における現在の雇用状況ですが、4月のハローワーク角館の有効求人倍率は0.26倍で、前月比0.05ポイント減少、対前年比では0.08ポイントの増となっています。対前年比は今年1月から増加の傾向にあるものの、依然としてその水準は低く、また、企業の解雇、雇い止め等もあり、厳しい雇用情勢となっています。

こうした厳しい雇用情勢は今後も続くものと予想されることから、県の緊急雇用創出対策基金事業等を引き続き活用するなど、雇用機会の創出を図るとともに、緊急雇用助成金や雇用者対策事業費補助金制度の活用により、地域経済の活性化と求職者の支援に取り組んでいます。

次に、平成21年度の一般会計決算見込みについてです。

歳入総額は、204億6,533万8千円、

歳出総額は、199億7,562万4千円、

歳入歳出差引額が4億8,971万4千円を見込んでいます。

歳入歳出差引額から平成22年度へ繰り越すべき財源の総額6,485万円を差し引いた実質収支額は4億2,486万4千円の黒字となる見込みです。

次に一般会計補正予算についてです。

補正額は、1億4,380万2千円で、これに既定予算を加えますと補正後の額は、173億827万1千円となります。

主な事業は、地上デジタル難視聴整備事業費、地域運営体活動推進費交付金、地域総合整備資金貸付金、子宮頸がん予防関係費、緊急雇用対策費、“所得を生み出す玉手箱”総合産業研究所費、小土地改良事業費補助金、仙北市ツーリストインフォメーションセンター事業費等です。

次に、各部局等の主要事項並びに諸般の状況を報告します。

## 【総務部】

### ◇国保調整交付金調査委員会について

平成20年11月17日に実施された会計検査院会計実地検査に基づき、平成15年度及び16年度分に係る国保調整交付金の返還について3月定例会でお願いし、市としても究明することを約束しています。

この問題に関して、仙北市でも3月29日に独自に副市長を委員長とし、顧問弁護士にも出席いただいて「国保調整交付金調査委員会」を設置し調査を続けています。

4月22日に第1回委員会を実施し、調査方針について検討しました。その方針に従い、関係書類の搜索（5月13日、5月19日）、関係者への事情聴取などを行い、5月25日に2回目の委員会を開いて今後の方針を再検討しました。

今までの調査で、調定の変更内容を記載していると思われるメモのような書類が綴られている簿冊があることが判明しました。

今後この簿冊に基づき、再度、担当者の事情聴取をする予定です。

### ◇まちづくりミーティング（行政懇談会）について

役所を飛び出し、各地域で行政の今を報告しながら、将来のまちづくりにご意見などをいただく「まちづくりミーティング（行政懇談会）」を、5月17日から19日まで3地区で開催しました。

今回は3地区合わせて50人の参加をいただきましたが、行政運営上の基本的なご指摘や、今後、大いに議論を深めなければいけない難題など、多岐に渡るお話を頂戴しています。今後もできるだけ時間を確保し、各地区で開催したいと考えています。

### ◇仙北組合総合病院の改築に係る資料について

大仙市より、仙北組合総合病院の改築に係る整備手法について情

報提供がありましたので、議員の皆様にご覧ください。

### ◇地域運営体について

複数の地域において、運営体の設立に向けたアクションが起きている。特に白岩地域では運営体設立の準備会議が設置されていて、4月の田沢地域に続き、設立となる予定です。このような状況となったことから、白岩地域の運営体交付金を今定例会で補正予算案に計上しています。ご審議をよろしく申し上げます。

### ◇市民会議について

「明日の県立高校を考える市民会議」の第2回会議が、5月16日西木開発センターを会場に開催されました。委員間の議論は、今回も市民の皆さんに公開しています。市民として参加をいただいた方からもお手紙をいただくなど、公開の効果が発現できていると感じます。

第3回会議は、同じく公開で6月13日、角館交流センターで開催する予定です。この会議は、秋田県教育庁から担当の出席をいただき、今年3月に公表された第6次秋田県高等学校総合整備計画(素案)について、その考え方等を説明いただくことになっています。

### ◇高齢者福祉施設の民営化について

昨年から取り組んでいる養護老人ホーム「角館寿楽荘」と、特別養護老人ホーム「かくのだて桜苑」の民営化については、社会福祉法人「仙北市社会福祉協議会」を移譲先候補として、本定例会に関連議案を提案しています。ご審議をよろしく申し上げます。

### ◇保育園・幼稚園のあり方の検討について

社会情勢の変遷で、保育等の支援を希望する家庭が増えています。少しでもご要望にお応えしたいと考えていますが、現状では臨時職員が保育士の6割を超えるなど、保育士の安定確保にも問題を抱え

ています。そこで、将来の保育のあり方、幼児教育のあり方がどうあれば良いかを探るために、市役所内で検討会をスタートさせました。今年度内には方向性を導き出したいと考えています。

#### ◇市民スポーツ施設の総合的検証について

市内各地には、市民の健康づくりや競技力向上を目的に種々のスポーツ・レクリエーション施設があります。

これらの施設の配置、利用状況を検証し、また今後必要な施設や機能等を総合的に勘案するなどして、市民スポーツ・レクリエーション施設の利用促進や、将来における整備のあり方を示し、効果的で効率的な施策の推進を図りたいと考えています。

#### ◇過疎地域自立促進特別措置法の延長について

過疎地域自立促進特別措置法が、今国会で改正され、平成28年3月31日まで6年間の延長とともに指定要件が見直され、仙北市全域が過疎地域に指定されました。

また財源について、過疎対策事業債の対象に、新たにソフト事業が加わるとともに、過疎地域自立促進市町村計画を策定するにあたっては、地域住民等からの意見を伺いながら行わなければならないことになっています。

現在作業を鋭意進めていますが、9月定例会までには計画案を策定し、議決をお願いしたいと考えています。

#### ◇秋田内陸線について

秋田内陸縦貫鉄道は、四季折々の豊かな自然や伝統行事を楽しむ方々、韓国ドラマ「アイリス」のロケ地探訪などで、人気が高まっています。

そんな中、お客様からは沿線住民と車窓越しに手を振り合える「心のふれあい」に、多くの方が感動したとの声が届いています。

市では、沿線住民の協力をいただき、4年前から春の行楽期に「列

車にみんなで手を振ろう」運動を行ってきました。今後は、さらにこの運動を広め、おもてなしの仙北市づくりを進めたいと考えています。

#### ◇市内NPO団体連絡協議会の設立について

市民組織による自立的活動の地域づくりを支援・促進するため、市内NPO法人の情報交換や事業連携の場となる協議会組織の設立について、4月から専門家からのアドバイスを頂きながら意見交換を続け、設立の準備を重ねてきました。

その結果、5月28日に仙北市NPO法人連絡協議会の設立総会が開催され、協議会がスタートしました。総会では、NPO法人間の連携を図りながら、明るく住みよい仙北市実現のための活動、また行政との協働方針等を決定いただいています。

#### ◇市税関係について

課税関係では、5月に固定資産税、軽自動車税の納税通知書を発送し、6月の市県民税、7月には国民健康保険税を予定しています。

収納関係では、出納閉鎖の結果、平成21年度現年度分の各税目の収納状況は、

・市民税	97.09%	・固定資産税	94.19%
・軽自動車税	97.59%	・たばこ税	100%
・入湯税	94.41%	・国民健康保険税	91.57%

となり、前年同時期との比較で、固定資産税が0.08ポイントの低下となったものの、市民税が0.07ポイント、軽自動車税が0.07ポイント、入湯税が1.04ポイント、国民健康保険税が0.47ポイントの増と、適切な滞納処分の執行や訪問徴収により、景気が後退している状況の中で歳入予算を確保することができました。今後とも適正な課税と公平負担の原則を遵守し、市の歳入確保に努めます。

## ◇競争入札における予定価格事前公表の試行について

これまで競争入札における予定価格の事前公表は、市の指名審査会で入札前公表とした建設工事に限られていましたが、本市における入札手続きの一層の透明性を確保するため、市が発注する物品の購入、委託契約等の競争入札における予定価格についても、7月1日から事前公表を試行することとしています。

## ◇公共工事に係る前払金制度の拡充について

極めて厳しい経営環境の中にある地域の建設業を支援するため、7月1日より財務規則を改正し、前払金の対象工事を現行の請負金額300万円以上から130万円以上に、前払金の割合を請負金額1,000万円まで現行10分の3以内を10分の4以内に、請負金額1,000万円を超える部分について現行10分の2以内を10分の3以内に拡充することとしています。

## 【市民福祉部】

### ◇国民健康保険事業について

国民健康保険財政は、近年の景気低迷による被保険者所得の落ち込みや、今年度から始まった非自発的失業者への負担軽減制度、さらには医療費の増加傾向などにより厳しい状況に置かれています。

こうした現状を踏まえ、国民健康保険財政を維持継続するため保険税率の引き上げ改定案を、去る5月26日、仙北市国民健康保険運営協議会に諮問し、ご承認をいただきました。この承認に基づき、国民健康保険税条例の一部を改正する条例案を本定例会に提案をしています。どうか、よろしくご審議をお願いします。

なお、これまでの経過・傾向から、今後も医療費増が続くと見込まれ、厳しい事業運営が予想されますので、国保財政の安定化を図る検討を、常態的に継続し、注視していかなければならないと考えています。

## ◇仙北市遭難事故対策について

5月11日、遭難事故が発生した場合における必要な捜索活動を行うため、市の遭難対策委員会が開催されました。また、5月17日からは、仙北市共用林野運営協議会による入山規制が始まっています。このように関係各機関・団体と連携し、遭難事故等の未然防止に努めています。

なお、6月7日に発生した遭難事案については、翌日の午前中に無事が確認されました。今年もタケノコ採りシーズンが続きますが、事故がないことを願いながら、安全対策を継続します。

## ◇仙北市消防訓練について

例年、角館町桧木内川河川敷を会場に行っている仙北市消防訓練大会を、今年度はJ A秋田おぼこ田沢湖カントリーエレベーター敷地内に移し、6月27日に開催します。

この大会で、日頃の訓練の成果を十分に発揮し好成績を収め、全県大会を目指していただきたいと思います。

また、8月24日には秋田県消防協会大仙市・仙北市・美郷町支部主催による仙北市（西木地域）総合防災訓練を、西木庁舎他3会場で開催します。

災害の予防と災害応急対策等を迅速・的確かつ総合的に実施できるよう訓練するとともに、防災体制の強化に一層努めます。

なお関連しまして、総務部においては各部局連携のもと、様々な危機に迅速且つ的確に対応すべく、危機管理体制の検討を行っているところであり、早期の体制整備に努力していきたいと考えています。

## ◇予防ワクチン接種について

子宮頸がんは、20代から30代女性の発症率が年々増加していて、乳がんの発症率を大きく上回っている現状です。一方では、ワクチンによる予防手段があるため「予防できる唯一のがん」と言われています。女兒に接種するのが有効であることから、当面、小学校6年から

中学校3年生までの女子を対象にワクチン接種を計画しました。

また、日本脳炎の予防接種については、平成17年5月にワクチン接種後に重症の副作用発症例があり、積極的な勧奨を差し控えるよう勧告を受けていましたが、平成22年4月1日付けで厚生労働省より新型ワクチンが開発されたことで積極的勧奨を再開する旨の勧告があったため、3歳児を対象にワクチン接種の計画をしました。

このため、本定例会に予防事業としてワクチン接種を実施したく補正予算を計上していますので、ご審議をよろしくお願いします。

## 【観光商工部】

### ◇仙北市観光産業拠点特別区戦略会議について

「角館」「田沢湖畔」「乳頭・高原・玉川・水沢」地区の観光振興の取り組みや、誘客促進、地域の活性化を目指し「仙北市観光産業拠点特別区戦略会議」の委員の公募を行ってきました。その結果、9名の応募がありました。6月3日に選考会を開催し、私が指名をする委員とあわせ、計15名の委員を決定しました。

今月中に、第1回の戦略会議を公開で開催すべく準備を進めています。

## 【農林部】

### ◇稲の生育状況について

春先の天候不順などで、農作業への影響を心配していましたが、田植え作業については、平年に比べ2日程度の遅れとなり、5月中旬から6月上旬にかけてほぼ終了しています。移植後に気温の低い日があり、生育が停滞したところもありましたが、6月に入ってから好天が続き、生育の遅れは取り戻しつつあります。

なお、転作確認作業を6月14日から25日まで行うこととし、農家の皆様のご協力をお願いしています。

## ◇過疎地域等自立活性化推進交付金事業について

総務部の項でも触れましたが、新しい「過疎地域自立促進特別措置法」で仙北市全域が過疎地域に指定されています。これを受け、22年度において、過疎市町村等が行う先進的・独自性・創造性のあるソフト事業を幅広く支援するため、交付金事業が実施される旨の通知が総務省より示されました。

募集要領によると、本交付金は、産業振興（スモールビジネス振興）、生活の安心・安全確保対策、集落の維持・活性化対策、移住・交流・若者の定住促進対策、地域文化伝承対策、環境貢献施策の推進等のソフト事業を対象とし、1件あたり1,000万円以上の事業に対して、1,000万円が交付される内容です。

本事業を庁内で検討した結果、本年度から「総合産業研究所」で計画している事業内容が本事業の趣旨に合致することから、「市民・生産者連携による地域特産品を活かした仙北型スモールビジネスの創造」を基本テーマに、提案書を作成し申請しました。

今後、事業採択の可否が決定されることになっていますが、採択となった場合は、特定財源の予算組み替えを行う予定です。今回は事業費についての予算計上です。よろしくご審議をお願いします。

## ◇水田農業推進協議会について

5月6日、水田農業推進協議会を開催し、22年度の事業計画等について協議しました。

本年度からスタートする「米戸別所得補償モデル事業」については、加入申請が6月末日までとなっていることから、集落推進員を通じて申請書を配布し、またJA及び米集荷業者を通じて推進協議会で申請を取りまとめることにしました。現在は受付作業中です。

助成制度の大幅な変更により、交付金が減少する転作作物については激変緩和措置が講じられますが、市単独分については、総額で2,200万円程度を見込んでいて、これは作付面積が固まり次第補正予算に計上したいと思います。

## ◇農林 1 課会計実地検査について

4月12日に、会計検査院農林1課による会計実地検査があり、平成20年度の担い手農地集積高度化促進事業について検査を受けました。

検査対象の中で、広久内地区農用地利用改善団体が農地の利用集積を行い、農作業委託契約により農事組合法人まめっこ角館が大豆の生産を行った事業について、一部対象農地で大豆の連作障害回避のため大豆の作付けが行われなかったことや、集積対象者との契約に不備があり、計画どおりの事業が行われていないとの指摘を受けました。このため、県農林水産部及び東北農政局等の指導を受けながら、補助金の返還等も含め、広久内地区農用地利用改善団体及び農事組合法人まめっこ角館と対応を協議しています。

今後こうしたことが起こらないよう、補助事業の実施にあたっては、制度の趣旨等を十分周知し、指導を徹底します。

## ◇口蹄疫対策について

4月に宮崎県で発生した口蹄疫は、全国の畜産関係者に大きな衝撃を与えています。秋田県では、5月24日に「秋田県口蹄疫対策危機管理連絡部」を設置し、当面の対策として次のような措置を講ずることとしました。

- ①県内の畜産農家に対し、畜舎出入口や畜舎内通路、畜舎周辺の消毒の徹底を図るため、炭酸ナトリウム溶液及び消石灰を無料配布。
- ②消毒や健康観察の徹底指導と併せ、一斉聞き取り調査の実施と注意喚起用のリーフレット配布。
- ③関係機関・団体との情報の共有。
- ④空港における防疫体制の強化。

5月27日には、「口蹄疫に係る関係機関・団体担当者会議」が開催され、JA、市町村、関係機関の担当者により、万一の事態に備えた初動対応の対策等が協議されました。

現在本市では、畜産農家111戸、繁殖牛472頭、肥育牛25

7頭、乳用牛57頭、豚3,023頭、めん羊11頭が飼養されています。

6月4日には、関係団体の担当者会議を開催し、当面の対策について協議、畜産農家への指導、情報収集の徹底を図っていくことにした他、市のホームページや広報により、農場への立ち入り自粛等と呼びかけていくことにしています。なお危害の発生も想定し、危機管理としての事前の検討も進めています。

### ◇新エネルギー関係について

今年2月の第1回定例会でもお話しをした新エネルギー関連事業ですが、文部科学省が公募する平成22年度「社会システム改革と研究開発の一体的推進プログラム」については、この度は残念ながら不採択となりました。しかしながら、本市にとっては重要な分野と認識し、今後も小規模、分散型エネルギー資源を持続的に開発・利用するため、各研究調査、モデル事業の導入を検討します。

### 【企業局】

水道事業会計及び温泉事業会計の平成21年度決算の概要についてご報告します。

水道事業は、

総収益3億3,262万6,605円、

総費用3億2,905万1,316円であり、

当年度純利益が、357万5,289円となっています。

給水人口の減少等により給水収益の伸びが期待できない状況下で、費用の抑制に懸命に努めてきましたが、前年度に比して期中純利益が減となりました。

減益の主な要因は、設備の新設及び更新による減価償却費、及び資産減耗費の増です。

可能な限り経営の合理化を図り、経営の安定性を保ちつつ水道事業未普及地域の解消に努めます。

また、国の方針に基づき、仙北市水道事業の統合及び料金統一を早急に実施しなければなりません。利用者の負担増を抑制するため、経営改善を図り、経費を最大限に切り詰めた上で料金を算定すべきとの基本姿勢に基づき、水道料金算定基準、料金改定案等の策定について、仙北市水道運営審議会に審議をお願いすることとしています。

温泉事業については、

総収益 3, 985万8, 035円、

総費用 3, 010万2, 111円であり、

当年度純利益は975万5, 924円となっています。

## 【市立病院】

### ◇市立角館総合病院について

平成21年度の市立角館総合病院決算状況は、

1億3, 302万3千円の赤字決算となりました。

救急医療や急性期機能を維持し、また看護度の高い十分なケアを提供する7：1の看護配置の維持に配慮しながら、経費の節減等経営の合理化に努力しました。赤字の要因としては、内科関係の常勤医師の不足に伴う外来患者数の減少等で、計画どおりに収入が伸びなかったことなどが考えられます。

なお、患者数の推移としては、入院延べ患者数は9万7, 676人、1日平均267.6人で、前年度と比較すると815人の減、1日当たり1.5人の減となっています。

外来延べ患者数は15万1, 321人、1日平均625.3人で前年度と比較すると3, 948人の減、1日当たり13.7人の減となっています。

反面、入院及び外来の診療単価が増加し、収益増加に改善傾向があったことで、赤字額は前年度と比較して6, 816万3千円縮減しています。

4月からは、生活習慣病をはじめとする病気や異常の発見や健康状態のチェックに役立ててもらおう、「お手軽検査」を開始するなど、

利用者の利便性を考慮したサービスへの取り組みも始めました。

今後も常勤医師の充足に努め、健全な経営の確保に細心の注意をはらいながら、市民の医療ニーズに答えられるよう一層努力を傾注します。

### ◇市立田沢湖病院について

次に市立田沢湖病院についてです。平成21年度の決算の状況は、経営改善の一環として平成20年10月から「障害者施設等一般病棟」を実施し、入院患者の増加で医業収益を上げることができました。

また、経費の削減等経営の合理化に努めましたが、

当年度は4,373万円の赤字を計上することとなりました。前年度の赤字額は1億8千623万円だったので、前年度に比較すれば1億4千250万円ほどの縮減となります。

4月からは副院長として秋山博先生においでいただき、現在、常勤医3名に加え秋田大学、岩手医科大学、県立脳血管研究センター、秋田赤十字病院や他の自治体病院等からの応援を受けながら診療にあたっています。経営の安定や地域の医療ニーズにこたえられるよう、一層努力を傾注します。

なお、「仙北市立病院等改革推進計画」に基づく給食業務の委託化については、年度当初からの実施を計画していましたが、二つの市立病院の経営・管理の一元化等を進めている中で、角館総合病院との共同委託化の道を求めるべきとの考えから検討を重ねました。この度、準備が整いましたので、7月からの委託に必要な予算組替えの補正予算をお願いしています。ご審議をよろしく申し上げます。

### ◇おわりに

以上、主要事項並びに諸般の報告を申し上げましたが、本定例会に提案している案件は、報告3件、専決処分の承認2件、条例関係8件、補正予算4件、契約関係2件、その他1件、人事案件2件、諮問関係2件の計24件です。

慎重審議の上、全議案についてご可決を賜りますようお願い申し上げます。市政報告とします。

